

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

花ふぶき子福地藏の背に肩に

さつき3丁目 伊藤 純夫

●特選の選評

桜の花びらが風に吹かれて乱れ散る様を花吹雪という。作者は今、花吹雪の真つ口中に子福地藏と対面している。「子福」とは、多くの子宝に恵まれた状態のこと。皆さんもきつと、ごこの境内にて小さな子どもたちを抱っこし、背から肩から子どもに囲まれている満足そうなお地藏様の姿を見たことがあると思う。そこに止めどなく花吹雪が……。最後に「背に肩に」と言い切ったことで、私も一緒に見ているような素晴らしき一句となった。

俳句



加茂都紀女先生

入選

春耕や青鷺十羽ひき連れて

上田町 村上 恒子

目つむれば赤き闇あり春の昼

江曾島本町 中村 元吉

田起しの後追ふからすルフィー団

岩曾町 徳田 勝彦

若菜摘む野に君の手が踊ってる

山本2丁目 鈴木 豊子

特選

濃く淡く萌ゆるみどりの散歩道
初の節句か幟はためく

下栗町 大塚 榮子

●特選の選評

心楽しい春の散歩道。濃く淡くと緑を表し、歌に奥行きを持たせているばかりか、こいのぼりまで登場させ、一首を一幅の絵のごとく完成させた。「初の節句か」の「か」は疑問符でもあり、感嘆符でもあるのだ。

短歌



藤本 都先生

入選

梅の木に満開の白みつる時
百寿の母逝く朝を思えり

野沢町 鈴木 孝男

大銀杏を結べぬままの態にして

清原台5丁目 北市 邦子

初優勝に場内は沸く

清原台5丁目 北市 邦子

初モロッコ砂漠草無しどこまでも
たまにオアシス緑まぶしき

中岡本町 中沢 智子

寒林の梢のすきま朱に染めて
夕日大きく明日へと向かう

清原台6丁目 小太刀 節子

特選

控え目に大人が過ぎす子供の日

清原台4丁目 水上 義明

●特選の選評

近年は戸建て住宅も少なくなり、追い打ちをかける少子化で町中にはほとんどこいのぼりも見られずこどもの日も忘れがちである。こどもの日はかりではなく日ごろから地域の大人が子どもたちを見守り、子どもの歓声や笑い声が聞こえる町にしたいものである。

川柳



佐藤隆久先生

入選

日めくりは教えてくれぬ明日の運

鶴田町 鈴木 美美子

水溜り飛び越え燥ぐ下校班

雀の宮6丁目 鈴木 るり

少しだけ夢を見ようか花の下

八幡台4丁目 羽場 京子

くねり道うまくブレーキ踏んで古い

川田町 小林 和子

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

3208540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い